

1. 5 浸水対策 (1) 現状

かつて雨水は畑や土の地面から地中にしみ込んでいたが、市域の大部分が住宅や道路になると雨水は地中にしみ込みにくくなり、今では雨水の約50%が下水道管に流れ込んでいる。このような中で、近年は地球温暖化やヒートアイランド現象の影響による局所的な豪雨が頻発しており、浸水被害をもたらしている。

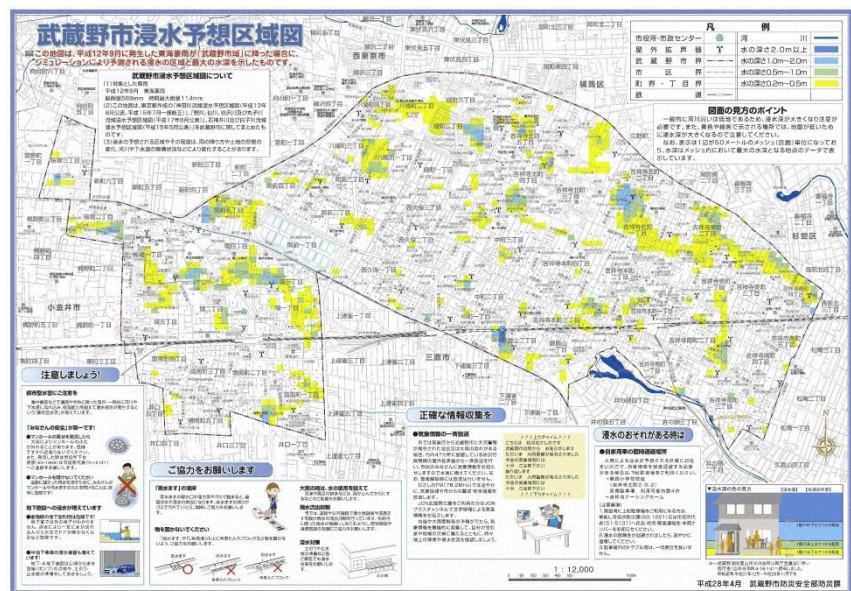
特に平成17年9月4日の集中豪雨では、整備水準をはるかに上回る最大60分雨量95.5mmという豪雨を記録し、これまで一部の窪地等に限られていた浸水被害が市内各所で発生した。

このような状況を受け、平成19～26年度の8ヶ年計画として、特に浸水被害の大きい善福寺川排水区を対象とする善福寺川排水区総合浸水対策緊急計画を策定し、これに基づき具体的対策として北町雨水貯留施設を設置した。

また、平成27年4月には、流域対策、河川対策、下水道整備等の間で連携、調整を図りながら総合的に豪雨対策を進めるために、流域対策実施計画を策定した。

その他、学校の校庭への雨水貯留浸透施設の設置や、民有地への雨水浸透施設等の設置助成等を行い、下水道管に入る雨水を減らす取り組みを行ってきた。

それでも、平成29年8月19日の集中豪雨では、最大10分雨量27.0mm（最大60分雨量66.5mm）を記録し、市内各所で浸水被害が発生しており、さらなる対策が求められている。



武蔵野市浸水予想区域図

(2) 課題

1) 雨水貯留・浸透施設の設置の推進

公有地に既に設置した雨水貯留・浸透施設の適切な運用、維持管理を行うとともに、重点地区を定めて各地区の特性に応じた貯留浸透施設の整備等を推進する必要がある。また、民有地における雨水浸透施設等の設置に対する助成を今後も継続する必要がある。

2) 雨水排水設備の整備水準の向上 (P7の再掲)

善福寺川排水区及び神田川排水区の下水道施設の整備水準の目標は50mm/時だが、現在は40mm/時であるため、東京都による河川改修等を見据えつつ第二次下水道計画(幹線計画)を推進する必要がある。

また、平成28年度に築造した石神井川排水区雨水排水幹線への切替工事を実施し、早急な供用開始を目指す必要がある。

3) 河川との連携による豪雨対策

「東京都内の中小河川における今後の整備のあり方について」(平成24年11月)が策定され、河川の目標整備水準が現在の50mm/時から時間最大75mm/時(区部)、65mm/時(多摩部)に引き上げられた。今後は「武蔵野市流域対策実施計画」(平成27年4月)に基づき、流域対策、河川対策、下水道整備等の間で連携、調整を図りながら総合的に豪雨対策を進める必要がある。



北町雨水貯留施設の様子
(北町保育園地下、4,500 m³)



市内での浸水被害状況
(平成26年7月24日北町保育園付近)